

抗議書

2月8日、第二通学区の高校改革プラン推進委員会は報告書を提出し、野沢南高校の多部制・単位制への転換が盛り込まれました。私たちはこれまでの経過並びに報告の内容について納得いきませんので、以下の点について抗議します。

1. 長野県教育委員会は、本校を視察せずに「たたき台」を作っている。

野沢南高校が多部制・単位制への転換候補校に挙げられた理由の一つに、定時制の施設があることがあげられていますが、本校の定時制は専用教室が一つもない現状にあります。長野県教育委員会は、校舎や周辺の環境を一度も視察していません。この状況で候補校としてあげられ、議論の対象になることは、まさに机上の空論を展開しているのと同じで、おかしいと思い抗議します。

2. 「高校改革プラン」の内容が、該当校以外の高校生に浸透していない。

「たたき台」が示されてから7ヶ月も経つのに、該当校以外の高校生の間では、高校改革プランの内容が知られていない現状があります。本来このような長野県全体に関わる大きな問題については、当事者以外の人も含めて多数の人が理解して、議論がなされるべきものだと思います。また学校を中心である生徒達の理解がなされず、全県的な議論がなされないまま、事態が進行していき、該当する生徒たちだけが不安を抱えるような状態はあるべきではないと思い、抗議します。

3. 推進委員会の議論の進め方がおかしい。

1月9日の第2通学区推進委員会では、野沢南高校の多部制・単位制移行が、欠席者がいるなかで委員会の多数決によって決定されましたが、このような大事な問題について、スケジュールを理由に多数決という方法で決定することはおかしいと思います。もっとしっかり議論をし、委員の方々全体の合意があって初めて決定されるべき内容だと思います。地域の意見を聞かず強引な方法で本校への多部制・単位制導入を決定した推進委員会の決定の仕方に強く抗議します。

4. 私たちの意見や要望が聞き入れられていない。

私たちは、今日まで様々な生徒会活動を通して、県教育委員会に私たちの意見や要望を提出してきました。12月に提出した要望書の中でも、「地域の意見を聞き、慎重に議論を進めてほしい」という項目を設けました。しかし、県教育委員会は、全く私たちの意見を聞かずに、高校改革プランを進めています。推進委員会でも私たちの意見が全く反映されないまま、結論が出てしまい、残念でなりません。当事者である学校生徒の意見を聞かずに事態を推し進める県教育委員会の姿勢に、強く抗議します。